

議会報告



3月に開かれた予算特別委員会において14項目にわたる質問を致しました。主な内容を掲載させていただきます。

防災対策について

質問	答弁
避難所となる体育館の窓ガラス飛散防止対策、児童生徒が学校園で被災した時のヘルメットや防災ずきんの配備を要望、また民間マンションと協定を結び新たな避難所を確保する帰宅困難者対策およびBCP策定の進捗状況について聞く	窓ガラス飛散防止対策については一部を除いてまだできていないので協議を進めていく。帰宅困難者対策については、バスや船舶による代替輸送手段の確保等研究していく。BCP（業務継続計画）策定については取り組みを進めていく。

ひらかたの魅力発信事業（ひらかた検定）について

質問	答弁
5年前の市制施行60周年事業の一環として、第一回ひらかた検定が実施された、今回65周年記念事業として、ひらかたの魅力を全国に発信するため第二回ひらかた検定の実施を提案	民間も参画した実行委員会方式を取り入れるなど、民間のアイデアを活かし、検定に向けての機運を高めながら実施する

多胎児家庭育児支援事業について

質問	答弁
本年10月からホームヘルパーの無料派遣、ファミリーサポートセンターの提供会員による送迎や預かりが実施されるが、事業を実施していく中で、育児支援のニーズに応じ、柔軟に対応していかれるのか、また少子化対策の一環として不育症の検査や治療への助成を要望	事業を実施していく中で、育児支援の内容の検証やニーズ把握などを行っていく。

こども医療費助成について

質問	答弁
本年4月から、こども医療費の助成が、入院が小学校6年生まで拡充される。大阪府下における本市の制度の水準はどのような状況になるのか、「健康医療都市」を宣言された本市として、子育て支援の中でもニーズが高いこども医療費助成はトップレベルであるべきである、通院についても拡充を要望	今回の制度の拡大を受けて、平成24年1月現在の大阪府下の状況に照らし合わせると、43市町村のうち、本市を上回るサービス水準の自治体は、通院で7市町村、入院で9市町村

市制施行 65 周年事業「健康医療都市ひらかた」推進事業について

質問	答弁
今、精神疾患の患者数は、がんや脳卒中、心疾患、糖尿病の4疾病をはるかに超え、国民的な課題として位置づけられている。健康医療都市を推進していく上で「こころの健康」に関する取り組みが重要になる。「こころの相談センター」の設置を要望	健康医療都市ひらかたコンソーシアムが取り組むべき連携事業の一環としてコンソーシアムを構成する関係機関や団体と話し合いを重ねていく。

自殺予防対策事業経費について

質問	答弁
自殺原因の中でも、経済問題が多いと聞いた。今回拡充されるひらかたいのちのホットラインをフリーダイヤルにしているかが伺う	経済問題でお悩みの方がおられることも踏まえ、今後検討していく。

その他、決算特別委員会の審査結果内容をふまえて、人材育成基本方針について、学園都市ひらかた推進協議会経費について、不登校支援協力員配置事業について、地域子育て支援拠点事業、子宮頸がん検診、飼い犬等不妊手術費補助事業について、交通対策費について質問させていただきました。